

## 「第5次ふじのくに防犯まちづくり行動計画」の進捗状況について

## 1 計画目標の評価

目標：刑法犯認知件数を令和7年末までに12,000件以下とする。

○令和4年は、14,269件（前年比▲171件）であった。

○近年、減少率に鈍化が見られ、令和5年8月末現在で増加に転じている。

令和7年末目標値「12,000件以下」に向けて、より一層の取組が必要である。

## 刑法犯認知件数の推移

(単位：件)

区 分	【基準年】 R2年	R3年	R4年	【目標】 R7年	R4	R5
					1-8月	1-8月
件数	15,370	14,440	14,269	12,000	9,087	10,185
前年比	▲2,506	▲930	▲171	—	▲524	+1,098
<参考> 期待値	—	14,696	14,022	—		

## 2 参考指標の評価

## (1) 評価区分による評価

○目標指標37項目のうち、再掲8項目を除く29項目を評価実施した。

○29項目中、令和4年度の実績値が明らかになった25項目のうち、「目標値以上」は9項目、「A」は2項目、「B」は3項目であり、14項目・56.0%が目標達成に向けて順調に推移している。

○「C」は3項目、「基準値未滿」は8項目と、11項目・44.0%の進捗が低調であることから要因を分析し、今後の施策展開に反映させていく。

戦略（施策の柱）	評価区分					※コロナ影響による 項目は( )で内数とする。 基準値未滿	評価 不能 (数値未確定)	計
	目標値 以上	A	B	C				
1 地域の防犯力・防犯意識の向上	4 (1)	1	2	1	5 (1)	—	13	
2 子どもの犯罪被害等防止	4 (1)	1	—	—	1	2	8	
3 女性の犯罪被害等防止	—	—	—	1	—	—	1	
4 高齢者等の犯罪被害等防止	—	—	—	—	1	1	2	
5 再犯防止の推進	1	—	1	—	1	1	4	
6 犯罪に強い都市基盤づくり	—	—	—	1	—	—	1	
合計	9 (2)	2	3	3	8 (1)	4	29	
	14項目・56.0%			11項目・44.0%				

## (2) 低調評価項目の分析結果及び令和5年度の取組方針

### ア 評価区分：「C評価」

戦略	区分	目標指標項目	令和4年度の分析結果及び令和5年度の取組方針	担当課室
1	1-4	しずおか防犯まちづくり県民会議の参加団体数	交通関連の1団体が新規加入したが、閉会や県外移転により2団体が脱退したため、全体の参加団体数は前年よりも1減となった。 令和5年度以降、目標達成のために、引き続き未加入団体に対して働きかけ、加入に向けての広報、勧誘活動を活発化させる。	くらし交通安全課
3	3-3	DV防止ネットワーク設置市町数	令和4年度は33市町の設置にとどまった。 令和5年度以降、未設置の2町に対して他の近接するネットワークと連携する形での設置を呼びかけていく。	こども家庭課
6	6-1	くらしの防犯伝導士による防犯講習会開催回数	くらしの防犯伝導士による各種防犯講習会等を行い、県民の防犯意識の高揚に寄与した。 令和5年度も、くらしの防犯伝導士による各種防犯講習会等を各地で開催し、県民の防犯機運醸成を図っていく。	警察本部

### イ 評価区分：「基準値未満」

戦略	区分	目標指標項目	令和4年度の分析結果及び令和5年度の取組方針	担当課室
1	1-2	人権啓発講座等参加者数	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止や規模縮小となった講座や啓発イベントがあり、目標値を下回った。 令和5年度は、社会情勢を的確に捉えながら、県民に関心の高い講座内容にするとともに、在宅等でも受講できるようオンライン配信を活用した講座等開催に取り組んでいく。	地域福祉課 人権同対策室
	1-5	防犯責任者を設置する事業所数	15事業所の新規登録事業所があった一方、47事業所の廃業や支店統廃合により、全体として減少した。 令和5年度は、設置事業所の増加に向け、しずおか防犯まちづくり県民会議構成団体・機関への働きかけ、広報、勧誘活動を強化する。	くらし交通安全課
	1-6	防犯責任者研修会参加者数	Zoomによるオンライン形式セミナーを開催し、さらにYouTube「静岡県庁チャンネル」における配信を行ったが目標達成には至らなかった。 令和5年度もオンライン形式セミナー、後日の配信を予定している。テーマは令和4年度を受講者から希望の多かった「サイバー犯罪対策」を選定するとともに、しずおか防犯まちづくり県民会議構成団体・機関へ研修会参加の働きかけなどの広報を行う。	同上
	1-7	消費生活相談における被害額	消費者教育、事業者指導、消費生活相談等を執行したものの、インターネット通販や、SNSで勧誘される投資等の儲け話のデジタル関連トラブルにより県全体の被害額が増加した結果、基準値を下回った。 令和5年度は、若者向け出前講座や、大学生と協働制作した動画を活用した啓発、出前講座の講師養成により、消費者教育・啓発を強化し、消費者のデジタル関連トラブルの対応力の向上を図る。また、市の福祉部門の見守りネットワークと連携した消費者安全確保地域協議会の設置を促進するなど、高齢者の見守り・声かけ体制の整備を進めていく。	県民生活課
	1-12	県警ホームページ(暮らしの安全)へのアクセス件数	県警察ホームページは、県警察が令和4年度に開発したスマートフォン用防犯アプリ「どこでもポリス」との連動や、より見やすく内容を見直したが、アクセス件数が減少した。 令和5年度は、各種広報媒体によりアクセスを促すとともに、わかりやすく県民が興味をひくような内容となるよう、工夫改善する。	警察本部

戦略	区分	目標指標項目	令和4年度の分析結果及び令和5年度の取組方針	担当課室
2	2-9	エスピーくん安心メールの登録者数	民間企業やボランティアの協力を得て登録促進活動を実施したが、目標達成には至らなかった。 ※令和5年5月末にサービス終了	警察本部
4	4-5	特殊詐欺認知件数	被害防止推進地区の設定、65歳以上の女性に対する重点的な被害防止対策「さくらセーフティ作戦」の推進、過去の被害状況等の分析結果を基に被害等多発期間における特別警戒対策の実施等の様々な対策を実施したが、広報が行き渡らず被害件数は増加した。 令和5年度も上記対策をさらに推進し、危機意識の醸成を図っていくとともに、サギ電話に出ないための電話機対策を強力に推進していく。	同上
5	5-2	生活保護世帯の子どもの高等学校等進学率	高等学校等以外への就学やひきこもりなど個々に課題がある子どもが多かったことから「基準値以下」となった。 令和5年度は、個別の事情に応じたきめ細かな支援を行うなど、より一層の推進が必要である。	地域福祉課

## 《参考》評価方法

### ○ 算出方法

指標の種別	評価方法
推移目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動計画は令和4年度から令和7年度までの4年計画であるが、基準値（令和2年実績）を基に、令和3年度から5年間の進捗状況を評価する。</li> <li>基準値と目標値から各年度の「期待値」を算出し、当該年度の実績が「期待値」に対してどれくらいの割合（進捗率）か評価する。</li> </ul> $\text{年度あたり期待値} = (\text{R7度目標値} - \text{R2度基準値}) \div 5\text{年}$ $\text{進捗値} = (\text{R4度実績値} - \text{R2度基準値})$ $\text{進捗率} = (\text{R4度進捗値} \div (\text{R4度期待値} \times 2) - 1) \times 100$
維持目標	<p>当該年度の目標値を100%とし、実績がどのくらいの割合にあるのかで評価します。</p> $\text{進捗率} = (\text{当該年度実績} \div \text{数値目標}) \times 100$

### ○ 進捗評価区分・判断基準

進捗評価区分	進 捗 率	
	推移目標（維持目標以外）	維持目標
目標値以上	目標値以上※	目標値以上
A	期待値に対する推移が+30%以上※	—
B	期待値に対する推移が±30%	目標値の85%以上 100未満
C	期待値に対する推移が-30%以下※	目標値の85%未満
基準値未満	「基準値」未満※	基準値未満
—	統計値等発表前、当該年度に調査なし等	

※減少を目指す数値目標については、「目標値以上」及び「A」の判断基準中の「以上」を「以下」に、Cの判断基準中の「以下」を「以上」に、「基準値未満」の判断基準中の「未満」を「超」に読み替える。